

(若手)農業者によるグループ化 およびグループ活動促進に向けての 方策調査研究

跡見学園女子大学

板垣青来 川嶋美月 長谷川ひなた

赤間珠希 辻本弥音 戸ヶ崎愛香 樋口由菜

目次

- ▶ 調査テーマ(概要)・仮説
- ▶ 今年度の活動
- ▶ アンケート報告
- ▶ 現地調査報告（ヒアリング）
- ▶ 今後の活動目標

01

調査テーマ(概要)・仮説

調査テーマ・仮説

全体のテーマ：若手(女性)農業者のグループ化と活動促進のための方策調査

《仮説》

過去3年のもりおか短角牛PR活動→毎回農家さんのボランティアの助け

- ・ 牧野ツアー
- ・ 市内レストランと連携したフェア
- ・ 銀座のいわて銀河プラザや弊学学園祭での試食販売

① PR事業継続

- ② ボランティア活動から、必要な経費を参加者から徴収する活動への変換
のためには、受け皿となる農業者のグループが必要になるのではないか？

調査テーマ・計画

《3カ年のテーマ・計画》

1年度目(令和6年度)「現状把握とグループ化の方向性の検討」

- ・ 農業運営の現状把握(農業形態、経営状況、課題)
- ・ 農業者グループに対する意向
(農家同士の交流の有無、グループ化についての意向)

2年度目(令和7年度)「グループ化に向けての戦略立案」

- ・ 農業者相互の情報交流機会の創出、情報交流発信ツールの検討・作成
- ・ 農業者の実態や意向に沿ったグループ形成(試行)

3年度目(令和8年度)「グループ活動の試行」

- ・ 継続した農業者グループの活動
- ・ ファーマーズコレクション(略称:ファマコレ※)の完成

02

今年度の活動について

今年度の活動について

・農業運営の現状調査

→畜産農家の状況調査、農業を継いだきっかけ・理由、今後の目標等

・農業者グループについての情報収集

→現在農家同士の交流はあるのか、グループ化についてどう考えているか等
グループ化を実現するために直接農家さんにお話を伺う
→どのような目的・共通点で集まったグループが必要があるか等を調査

・アンケート(7月中旬～)

→主に若手農業者を対象としたアンケート調査を実施

・ヒアリング(9月2日～4日)

→現地にて、黒毛和牛繁殖農家さん5名ともしおか短角牛繁殖農家さん2名に
ヒアリングを実施

03

アンケート報告

アンケート報告

7月中旬

現地でのヒアリングの前に、
主に若手農業者を対象としたアンケート調査を実施。

期間

2024年7月中旬～

対象者

盛岡市内の世帯主が50代以下の畜産農家19軒、
市内の既存畜産グループ1つ

質問項目

農業者同士の交流の頻度や満足度、
グループに入った(入っていない)理由、
グループに対して満足していること、
グループの加入を検討する際に重視すること etc.

盛岡市 青年農業者意向調査

跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 コミュニティデザイン学科
篠崎ゼミ

盛岡市の皆様、こんにちは。私たちは東京都にある跡見学園女子大学の学生です。
令和3年度からこれまで盛岡市の「文京区学生と創るアグリノベーション事業」の一環として盛岡市の農家の皆様と連携を図ってきました。
今年度は、盛岡市の若手農業者が持つ農業者同士の交流についての実態や意向をお聞きし、今後の活動に役立てたいと考え、アンケート調査を実施させていただくこととなりました。当然、あらゆる世代の方の意向をお聞きしたいところではありますが、今回は、特に若手農業者の皆様のお考え等をお聞きしたいと考えております。そのため、一緒に農業を行っている方の中に50代以下の方がいらっしゃる場合には、世帯主でなくとも、その方が回答していただくと幸いです。
調査結果は機械的に処理し、個人情報や回答結果は本事業以外に使用することはありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

《調査主体》 跡見学園女子大学 篠崎ゼミ

《調査協力》 盛岡市 農政課

玉山総合事務所 産業振興課

《調査に関するお問合せ先》 ☎019-683-3852 (内 244) (産業振興課 植田)

設問毎の回答指示に従って、1つもしくは該当する項目全てに○をつけてください。
回答期限は令和6年8月13日(火)とします。(当日消印有効)
同封の返信用封筒に入れて、そのまま投函してください。切手は不要です。

なお、調査にあたり、直接お話を伺うことも考えております。(予定9月2～4日)
ヒアリング調査にご協力いただける方は、調査票最後にお名前、住所、連絡先のご記入をお願いいたします。(日程の都合によりお伺いできない場合がありますので、ご理解くださいますようお願いいたします。)

アンケート報告

○グループ参加者の意見

- ・ 現在活動しているグループのメンバーは40～60代の男性が多い
- ・ グループの活動内容は「研修」が最も多い
- ・ また、グループに入って良かったことでも「勉強の機会の増加」と答えた方が多い

○グループ非参加者の意見

- ・ グループ非参加者は情報共有の機会や農家同士の関わりへの満足度について「得づらい」「足りない」と回答した割合が高い
- ・ 兼業農家と専業農家、また、繁殖農家と肥育農家の間でグループに対する考え方や求めるものに違いがある

アンケート報告

《結果からわかったこと》

○グループ化のメリット

- ・ 農家同士の情報共有や交流の機会を得やすい
- ・ グループとして研修講師等を専門機関に依頼することが可能

○グループ化への期待

- ・ 行政やJAへの意見もグループとして申告
→信頼度や優先度の高いものとして扱われるかもしれない

○グループ化の課題

- ・ 30代以下の農家にとってはグループに同年代が少ない
→加入へのハードルが高い
- ・ 最終的には属性に応じたグループ内での細分化が必要
- ・ 消費者とどのようにして直接関わりを持つか、グループの広報活動に課題

04

現地調査結果
(ヒアリング)

現地調査結果(ヒアリング)

9月2日～4日

現地にてヒアリング調査を実施。

5名の黒毛和牛繁殖農家さんにお話を伺い、2名のもりおか短角牛繁殖農家さんのもとで現地視察を行った。



現地調査結果(ヒアリング)

玉山和牛繁殖研究会「男塾」

畜産技術の向上や経営の安定を図ることを目的とした、
和牛繁殖農家さんのグループ。
会員は20名程度で、今年度より女性部が発足(7名)。
リーダーは獣医師免許を所持。
農業者のみで研修会等の企画・運営をしている。



現地調査結果（ヒアリング）

玉山和牛繁殖研究会「男塾」

○グループ化の利点について

- ・ 一人では研修に講師の先生を呼ぶことは難しいが、グループだと可能
- ・ 頻度も多くなく、自分が興味のある研修だけ参加してもよい
- ・ 情報交換や相談ができる同業者が増える

○現状の課題

- ・ 経済的な余裕を生むのが難しい
→子牛の販売価格が低下、牛の餌の値段は高騰

○目標

- ・ 経営の持続的な安定化
- ・ 子牛の販売価格上昇と、それに伴う和牛消費量の増加
- ・ 新たな流通ルートの確保

現地調査結果(ヒアリング)

黒毛和牛繁殖農家

○グループ化についてのイメージ

- 時間がとられる
- 生産性があるのか？と疑問に思う

○現状の課題

- 兼業農家と専業農家とで意識の違いがある。
- 作業効率の悪さ(スマート農業を取り入れるべきか？)
- 後継ぎがない(その土地に住む人も比例して減少してしまう)

○理想の農業者グループ

- 兼業農家のみのグループ
- 農業だけでなく、経営も学べるグループ

現地調査結果

《結果からわかったこと》

○グループ化について

- 農家同士での情報交換を積極的にしたい方と、そうでない方がいる
- 繁殖農家や肥育農家、専業農家や兼業農家の間で、認識や考えが異なる
- 既存のグループから取りこぼされた属性を共通点としたグループを求める声
- グループ化の利点として生産性向上を求める声

○農業経営について

- 餌や牧草用肥料の価格は高騰、対して子牛の価格は下落
- 盛岡市内では牛肉を食べる習慣が他の地方よりも根付いていない(食文化の違い)
→市内の牛肉の需要と供給が比例しておらず、厳しい経営状況
- 所得の低さや後継者不足が深刻
- 作業効率化のために改善をしたいが、予算(費用)がない
- 流通の見直しを求める声
→行政やJAとのより密な連携、協力や支援を求める声

05

今後の活動目標

今後の活動目標

① 現地調査

追加ヒアリングの実施(グループ化の方向性把握のため)

② ファマコレ構想

- ・ 農業者同士の情報共有
- ・ 消費者に向けた情報発信
を女子大生の視点で楽しく！

ファマコレとは？

他の農業者や消費者に向けて市内の農業者を紹介する冊子。

農業者の写真や生産物等の情報だけでなく、簡単なプロフィールや趣味など、農業者自身にも興味を持ってもらえる親しみやすいものを想定している。農業者向けの方には、より詳しい生産物等の情報や連絡先を記載し、農業者同士の繋がりを広げる役割を持たせたい。

ご清聴ありがとうございました